

読解を教える ―予測を生かした読解理論と読解活動―

2017.3.25 (台北) 26 (高雄) 石黒圭 (国立国語研究所)

教室活動①「片仮名にする意味を考える」

問 片仮名で書かれているすべての語について、その片仮名語の意味は何か、なぜ片仮名で書かれているかの2点をそれぞれ考えなさい。

原子バクダンの被害写真が流行しているので、私も買った。ひどいと思った。

しかし、戦争なら、どんな武器を用いたって仕様がでないじゃないか、なぜヒロシマやナガサキだけがいけないのだ。いけないのは、原子バクダンじゃなくて、戦争なんだ。

東京だってヒドかったね。ショーバイ柄もあったが、空襲のたび、まだ燃えている焼跡を歩きまわるのがあのころの私の日課のようなものであった。公園の大きな空壕の中や、劇場や地下室の中で、何千という人たちが一かたまり折り重なって私の目の前でまだいぶっていたね。

サイパンだのオキナワだのイオー島などで、まるで島の害虫をボクメツするようにして人間が一かたまりに吹きとばされても、それが戦争なんだ。

私もあのころは生きて再び平和の日をむかえる希望の半分を失っていた。日本という国と一しょにオレも亡びることになるだろうとバクゼンと思いふけりながら、終戦ちかいころの焼野原にかこまれた乞食小屋のような防空壕の中でその時間を待つ以外に手がなかったものだ。三発目の原子バクダンがいつオレの頭上にサクレツするかと怯えつづけていたが、原子バクダンを呪う気持などはサラサラなかったね。オレの手に原子バクダンがあれば、むろん敵の頭の上でそれをいきなりバクハツさせてやったろう。何千という一かたまりの焼死体や、コンクリのカケラと一しょにねじかれた血まみれのクビが路にころがっているのを見ても、あのころは全然不感症だった。美も醜もない。死臭すら存在しない。屍体のかたわらで平然とベントーも食べたであろう。一分後には自分の運命がそうなるかも知れないというのが毎日のさしせまった思いの全部だから、散らばってる人々の屍体の変テツもない自然の風景にすぎなかった。

(坂口安吾「もう軍備はいらない」の冒頭)

教室活動②「すし屋の湯呑み」（鰯、鯉、鯉、鰈、鱈）

問2 以下の語について、どうしてその字がその意味になるのか、字面から説明しなさい。

明るい	競う
暗い	幸せ
忙しい	畑
忘れる	薬
晴れる	親

教室活動③「音読の効用」

問3 以下の文章を音読し、2通りの読みが可能な漢字について、読み方によってどのような意味の違いが感じられるか、書きなさい。

師走に入って残業が増え、日々の生活がとたんに忙しくなった。それにつれて心も荒みはじめ、立てなおす術を失っていった。そんなある日、西の空をふと見やると、富士山が夕日に栄え、美しい姿を見せていた。それを眺めているうちに、汚れた心も清められ、来る新年も清々しい気持ちで迎えられそうな気がしてきた。

（石黒圭『「読む」技術』光文社より）

教室活動④「語のまとまりに分ける」

問4 （例）を参考に、つぎの文章中の（1）～（4）を、それぞれ語のまとまりに分け、スラッシュ（/）で区切りなさい。

（例）きのうスーパーで私が買った品物はヨーグルトと野菜だ。

☞きのう/スーパーで/私が/買った/品物は/ヨーグルトと/野菜だ。

私はその人を常に先生と呼んでいた。だからここでもただ先生と書くだけで本名は打ち明けない。（夏目漱石「こころ」冒頭）

ある日の事でございます。御釈迦様は極楽の蓮池のふちを、独りでぶらぶら御歩きになっ
ていらっしやいました。（芥川龍之介「蜘蛛の糸」冒頭）

教室活動⑤「話題を見抜け」

問5 つぎの文章の話題が何か、考えなさい。

鉄のくさりを両手で握って、行ったり来たりをくり返す。最初はゆっくりしているが、次第に速くなる。しかし、ゆっくりでも速くても、リズムはつねに一定である。立つこともできるし、座ることもできる。並んですることもある。

（石黒圭『「読む」技術』光文社より）

ハンドルを両手で握って、行ったり来たりをくり返す。最初は手応えがあつて、なかなか前に進まないが、次第に抵抗感がなくなり、スムーズに動くようになる。でこぼこより平らなほうがやりやすい。障害物があるとうまくいかなくなる。やり終わったあとは爽快感がある。毎日する必要はないが、頻繁にしたほうが、それだけ丈夫になる。

（石黒圭『「読む」技術』光文社より）

教室活動⑥「誤変換を探せ」

問6 つぎの文章には、誤った変換が9箇所あります。それを探し、正しい表現に直しなさい。

欧米を旅行すると、日本との小さな違いに戸惑うことがある。日本の生活に慣れてい
ると異和感を覚えるが、よく考えてみると、それなりの合理性を備えていることに
気づく。

たとえば、固定式シャワー。欧米のホテルでは、壁の高い市に固定式シャワーが取りつけられていることが多い。ホース式シャワーに慣れていると、ホースではなく自分の身体を動かさねばならず、不便を感じる。

しかし、欧米では、浴槽のなかが洗い場なので、固定式シャワーのほうが建って洗えて便利である。浴槽のそとに洗い場があり、椅子に座って洗う日本とは、その点で対象的なのである。また、湯船でお湯に漬からないぶん、欧米ではお湯が勢いよく出るシャワーが好まれる。そう考えると、ホース式シャワーが選ばれない理由もよく理解できる。

それから、レバー式蛇口。欧米では、上げて水を出すタイプのものしか見かけない。欧米のホテルで、水を止めるつもりでレバーを勢いよく上げて悲惨な経験をした人も少なくないだろう。間隔的には不自然なようだが、じつは日本でも、上げて水を出すタイプのものが復旧しつつある。

きっかけは、1995年の阪神淡路大震災であった。地震の影響でレバーが下がって水が出しっ放しになり、暖水を引き起こす事故が相次いだ。その結果、2000年にJIS（日本工業企画）で欧米式に統一されたのである。

（石黒圭『論文・レポートの基本』日本実業出版社より）

教室活動⑦「文の構造を見抜け」

問 第一段落を参考に、つぎの文章の第二段落以降の各文の構造を、節をくくる[]と、その節を受ける表現を示す___を使って明らかにしなさい。

[日本で人気がある] テレビ番組の1つに、「大食い番組」がある。大食い自慢のタレントが、[[一定の時間内にどのぐらい多くの料理が食べられるか] を競争したり、[[ある店のメニューに載っている] 料理を全部食べるという] 目標を達成したりするという] ものだ。[タレントたちが [[お客さんがよく頼む] その店の人気のメニューを当てる] まで食べ続けなければならないという] 企画もある。

「大食い」タレントたちはその見事な食べ方で視聴者たちを驚かせ、楽しませてくれる。しかしその一方で、番組にはさまざまな批判の声も寄せられているようだ。

たとえば、あんなに食べて大丈夫なのかと大食いタレントたちの身体を心配する声や、子どもたちが真似をしたらどうするのかという声もある。また、ある雑誌の取材で、A大学で社会学を教えるB教授は、貧しくて十分な食事ができない人や病気で食べられない人のことを考えず、食べ物を無駄にしている若者が増えているとして、こうした番組の影響を指摘していた。

一方、こうした批判の声に対して、貧しさや病気で食べられない人の問題と「大食い番組」とはまったく関係がない、結びつけて批判するのは間違っている、見たくなければチャンネルを変えればよいといった反論もあるようだ。

どの意見にもなるほどと思えるところがあり、「大食い番組」がいいか悪いかを簡単に決めることはできない。しかし、「大食い番組」の人気一方で、ダイエット食品が飛ぶように売れ、ときには若い女性がダイエット食品に頼りすぎた結果、栄養失調になってしまったという問題を耳にしたりすると、現代の「食」のあり方について、疑問を持たざるを得ない。

(石黒圭編『留学生のための読解トレーニング』凡人社より)

教室活動⑧「指示語が指しているものを知る」

問 つぎの文章に含まれている指示語（「それ」「そう」など）が何を指しているか、一つ一つ指摘しなさい。

知るということは、本質としての自分も変わるということです。①それを大げさに表現するなら、自分が別人になる。若い世代には、②その感覚がまったく消えたということでしょう。自分という確固とした実在があって、③それに知識が積み重なっていく。④それはコンピュータの中にデータが蓄積されるのに等しい。いまの若者は、暗黙のうちに⑤そう思っているんだなと思いました。若者が⑥そうなったのは、むろん大人の「常識」が⑦そうなったからです。

私にとって大学がおかしくなったように思えた理由の一つは、⑧それではないかと思い あたりました。習うほうの学生が、自分が変わっていくとは思っていない。⑨それでは教育になりません。育つというのは変わるということじゃないですか。教育の「育」は「育つ」ですよ。⑩それを、コンピュータの容量が増えると思って

いるんじゃないんですか。⑪それでは「育たない」。⑫そこが非常に問題だということに気がついて、以来いままで七年間、なぜ⑬そうなるかをさらに考えてきました。
(養老孟司『養老孟司の<逆さメガネ>』PHP 新書より)

教室活動⑨「省略要素を復元する」

問 つぎの文章を読み、そのあとの質問に答えてください。

東京のお台場*に現れた巨大ロボットを見に行ったら、① 有名なアニメに出ていたロボットで、今回あるプロジェクトの1つとして作られた模型だそうだ。

② 全長 18 メートル。実物大だという。③ 近くで見ると、まず大きさに驚かされる。アニメで主人公がこんなに大きなロボットを操縦していたのかと思うと、驚きはいつそう増す。子どものころ作って喜んでいたプラモデルも、実物大にはかなわない。そのころに見られたら、どんなに感動しただろう。

このロボットは、ただ立っているだけではない。④ 30 分ごとに動くのだ。頭が左右に動いたり、体のあちらこちらから光や霧を発射したりする。そのたびに会場から「お～」という歓声が上っていた。⑤ また、近くで見ただけなら自由にどこからでも見られるが、足元まで行って触ることができるコースもある。⑥ 無料だということもあって、長い列ができていた。

夜になってもにぎわいは変わらず、むしろ、人の数は増えているようだった。夜に見る姿もまた迫力がある。あちこちでその姿を撮るフラッシュが光っていた。私も、気がつくとも夢中になってシャッターを押していた。

会場でひととき印象的だったのは、スーツ姿のサラリーマンや大学生風の若者はもちろん、小学校高学年くらいのグループから初老の紳士に至るまで、幅広い年齢層の人たちが、ロボットに熱い視線を注いでいたことだ。⑦ きっと、このアニメのヒーローに自分自身を重ねていたのだろう。このアニメが現在でもいかに多くの人に支持されているかを実感したひとときだった。

*お台場＝東京湾のそばにある観光地。公園、温泉、テレビ局などがあるデートの場所として有名。

質問1 [] に共通して入る言葉を考えてください。

- (1) [] は有名なアニメに出ていたロボットで、今回あるプロジェクトの1つとして作られた模型だそうだ。
- (2) [] は全長 18 メートル。実物大だという。
- (3) [] を近くで見ると、まず [] の大きさに驚かされる。
- (4) [] は 30 分ごとに動くのだ。
- (5) [] を近くで見るだけなら待たなくてもいいが、 [] の足元まで行って [] に触ることができるコースもある。

質問2 (6) と (7) の [] に合う言葉を考えて入れてください。

- (6) [] は無料だということもあって、長い列ができていた。
- (7) [] はきっと、このアニメのヒーローに自分自身を重ねていたのだろう。

(石黒圭編『留学生のための読解トレーニング』凡人社より)

教室活動⑩「キーワードの連鎖を意識する」

私が中学生時代に、同級生の女の子が、リンスを使い始めた。私たちの世代の男にとって、リンスの匂いが、女の子の匂いであり、初恋の記憶である。日本でリンスが一般化したのは、昭和四十年代ではあるまいか。

初恋に限らず恋愛は匂いと無縁ではない。近しい関係になれば、自然とお互いが、自分の匂いを相手に知られてもいい距離になるのである。

最近、ネット上のみでの恋愛もある。匂いのない恋愛である。体臭のようなものを感じる事のない恋愛は、私には頼りないもののように思える。

私たちが子供の頃は、便所は汲み取り式だった。便所は「臭くて当然の場所」だった。だが、今では、「臭くてたまらない場所」は家庭のどこにもないのだ。今、匂いは家庭から、どんどん消えつつある。つまり、生活の中で、匂いの占める割合がどんどん減っている。とするなら、恋愛の中に匂いが入り込まなくてもよくなっていくのだろうか。

(竹内一郎『人は見た目が9割』新潮新書より)

教室活動⑪「関係の予測で展開を読む」

- ・以下の文章を読むなかで、次の展開がどうなるか、気になる文に下線を引いてください。

(1)イタリアを旅行し、あぜんとする出来事に遭った。(2)「アンビリーバブル(信じられない)！」。(3)目の前の紳士が叫んだその言葉が、いまだに耳から消えない。

(4)日程の最終日。(5)ロンドンへの帰路、水の都ベネチアの飛行場でのことだった。(6)出発まで時間があり、軽食を取りながら、時折、飛行機の発着状況を示すテレビ画面に注意を払っていた。

(7)搭乗予定の便名がなかなか出てこない。(8)「遅れているんだろ」。(9)そう決め込んでのんびりしていた。(10)出発予定時刻から1時間を切る。(11)家族連れでもあり、航空券をもう一度入念にチェックした。(12)便名に間違いはないが、何か変だ。

(13)もしかして……。 (14)航空会社のカウンターに向かうとだれもいない。(15)まさか、と嫌な予感。(16)航空会社の事務所の場所を聞き、飛行場2階に息を切らしながらダッシュした。

(17)事務所には貫録のある紳士が1人、留守番をしていた。(18)「この航空券を持っているんですが」。(19)チケットを調べた紳士は絶叫とともに言い放った。(20)「こんな便は存在しない。(21)ロンドン行きの便も今日はもうない。(22)こんな経験は初めてだ」

(23)問題のチケットには「記載の便以外は利用できません」と書いてある。(24)「??」。(25)一瞬、もう一泊ベネチアかとあきらめかけた。(26)しかし、運航状況を調べた後で、その紳士は言った。(27)「君は幸運だ。(28)別の会社で出発が遅れている便がある。(29)チケットを変更するから、走ってくれ。(30)あと10分だ」。(31)家族4人、荷物を持って再び走らされ、何とかその日のうちにロンドンまでたどり着けた。

(32)この話をすると、知人は「イタリアらしいな」と笑った。(33)勘違いも甚だしい。(34)チケットは世界的に有名な英国の旅行代理店を通して買った、英国のナショナル・フラッグのものだ。

(35)国のイメージ、偏見とは怖い。

(笠原敏彦「幻の航空券騒動 イタリアを笑えぬ英」『毎日新聞』2000.2.15
朝刊より)

教室活動⑫「内容の予測で笑う」

・以下の文章をよむなかで、次に来る内容の見当がついたものの、実際には予測が外れてしまった文の番号を挙げてください。

(1)わたしの職業はダンス教師で、タレントの女の子たちにダンスを教えている、と言うと、たいていの男性に羨ましがられる。(2)しかし、実態は、そんなに羨ましがられるようなものではない。(3)第一に、銀行員と同じで、価値のあるものを扱っているからといってそれを手に入れたり、自由にすることができるわけではない。(4)第二に、価値のあるものを扱っているのかどうかかなり疑問がある。(5)第三にわたしの職業はダンス教師ではない。

(6)ほんとうをいうと、私は女子大で哲学を教えている。(7)そのかわら趣味でジャズをたしなみ、義務で税金を払い、その片手間に新聞を読んだりテレビを観たりしている。(8)残りのわずかな時間は研究にあてている。

(9)女子大だと言うとよく羨ましがられるが、実際には決してそんなによいものではない。(10)理由は大きく分けて五つあるが、そのうち二つはさしさわりがあつ

てここに書くことはできない。(11)あと二つは思いだせず、残りの一つは今、鋭意
究明しているところである。

(12)バレンタイン・デーのときなど、お前ならトラック一杯くらいもらうだろう、
とよくいわれるが、実際には単位が足りそうにない学生がレポートに二百円くらい
のチョコレートをつけて郵送してくる、というのが数年に一度ある程度である。

(13)わたしがチョコレートをもらわないのは、わたしには隠れファンしかおらず、
ストレートに気持ちを表現できる学生がいないためである。

(土屋賢二『われ笑う、ゆえにわれあり』文藝春秋より)